

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 勝又 美穂子
接合科学研究所 特任准教授(常勤)

2021年度のインドネシアオンラインCIS(カップリング・インターンシップ)が、11月22日-29日の期間にインドネシアと日本を結んで実施されました。昨年度に引き続き新型コロナの影響のため、海外渡航不可となったことから、本年度もオンラインでの実施となりました。大阪大学の外国語学部インドネシア専攻2名、経済学部1名、工学研究科1名、インドネシア大の人文学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。本学学生は、5月から日本で計8回の事前研修を受講し、本番に向け準備を行いました。CIS開始後2日間は、日本・インドネシアの国紹介、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS実習テーマの検討などを行いました。

11月24日からの3日間は、インドネシア・セランにあるチレゴン・ファブrikエーターズ(PTCF)社とオンラインでつなぎ企業実習を実施しました。PTCFは、IHIの子会社であり、「発電用ボイラ等の製造メーカー」です。実習プログラムは、会社説明(業務内容等)や、PTCFの幹部やリーダー及びスタッフへのインタビューで構成されました。学生は実習テーマ「PTCFにおける労働意欲の課題と対策」に関してイン

タビューで得た情報をもとに、連日協議を重ね、最終報告会での提案に向け取り組みました。

最終日の11月29日には、最終報告会を開催し、テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学より国際関係担当のMs. Alfrida、Ms. Amanda、PT.CFの吉田社長、斎藤シニアマネージャー、Thomas取締役他、大阪大学の菅特任教授、勝又特任准教授ら計18名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。吉田社長からは、「具体的な提案も多く、PTCFでどのように取り入れられるかフォローしたい」とのコメントを頂戴しました。

CISを通し、学生は日本とインドネシアにおける労働意欲の認識の違い、あるいは同じ点を始め、労働意欲を向上するためにできることを一般的な視点とチームでの協議に基づいた創造的アイデアを組み合わせながら提案しました。

現場の空気感を直接感じる事が難しい中でも、インタビューを通して社員のプロフェッショナルリティと互いの信頼を十分に感じる事ができ、貴重な経験と学びの多い活動となりました。ご協力いただいたPTCFの皆様にはこの場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

